事例研究
8

見守りICT機器によるデータに基づいた個別ケア

～行動の分析・見える化・活用～

法人・事業所名	社会福祉法人愛生館　特別養護老人ホーム　ひまわり
職種・発表者	介護福祉士／松本圭介

01 取り組んだ課題

- 行動分析ツールの操作をを知らない職員に操作方法を教育する。
- 蓄積されている入居者データを実際に用いて、ケアを展開していく方法を実例をあげて紹介する。

02 具体的な取り組み

- 行動分析ツールのマニュアルを作成し、操作を教育した。
- 操作と機能を分かりやすくするため入居者１名を選定した。
- 毎月のユニットミーティングで全員で入居者データを確認し、実際にケアに展開していった。

03 活動の成果と評価

- 入居者の状態を主観ではなくデータで職員間に周知することにより、ケアへの展開に根拠を持たせることができた。
- データに基づいて各居室のセンサー設定を選択することで、精度が高い危険予知と作業能率向上に繋げることができた。

04 今後の課題

見守りICT機器は業務の中に根付いているが、行動分析ツールでデータの精査や分析を行ってケアに展開してくことはまだ対象者が限定されているので、入居者全員に拡げるようにしていく。

※参考資料
コニカミノルタHitomeQ　公式ホームページ
https://www.konicaminolta.com/jp-ja/care-support/index.html

愛生館
AISEIKAN GROUP

見守りICT機器によるデータに基づいた個別ケア

～　行動の分析・見える化・活用　～

社会福祉法人愛生館　特別養護老人ホームひまわり
介護福祉士　松本圭介

愛生館　事業所紹介

小林記念病院

複合施設CORRIN

特別養護老人ホーム(碧南・安城)

養護老人ホーム

老人保健施設

小規模多機能(福釜)

小規模多機能(碧南)

在宅介護センター

通所リハビリ

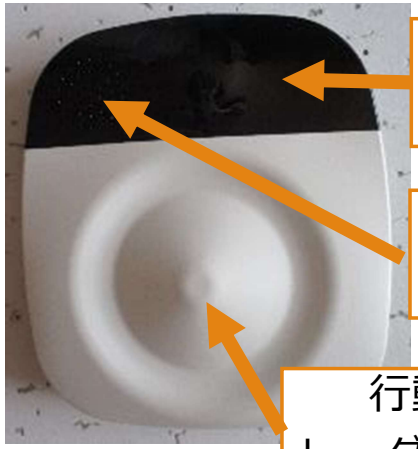
0歳から100歳まで地域の方が
安心して生活できるシステム

本日お伝えしたい事

1. 見守りICT機器の概要
2. 考えられた課題
3. 実際の取り組み
4. 活動の考察

見守りICT機器の概要

見守り機器での安否確認



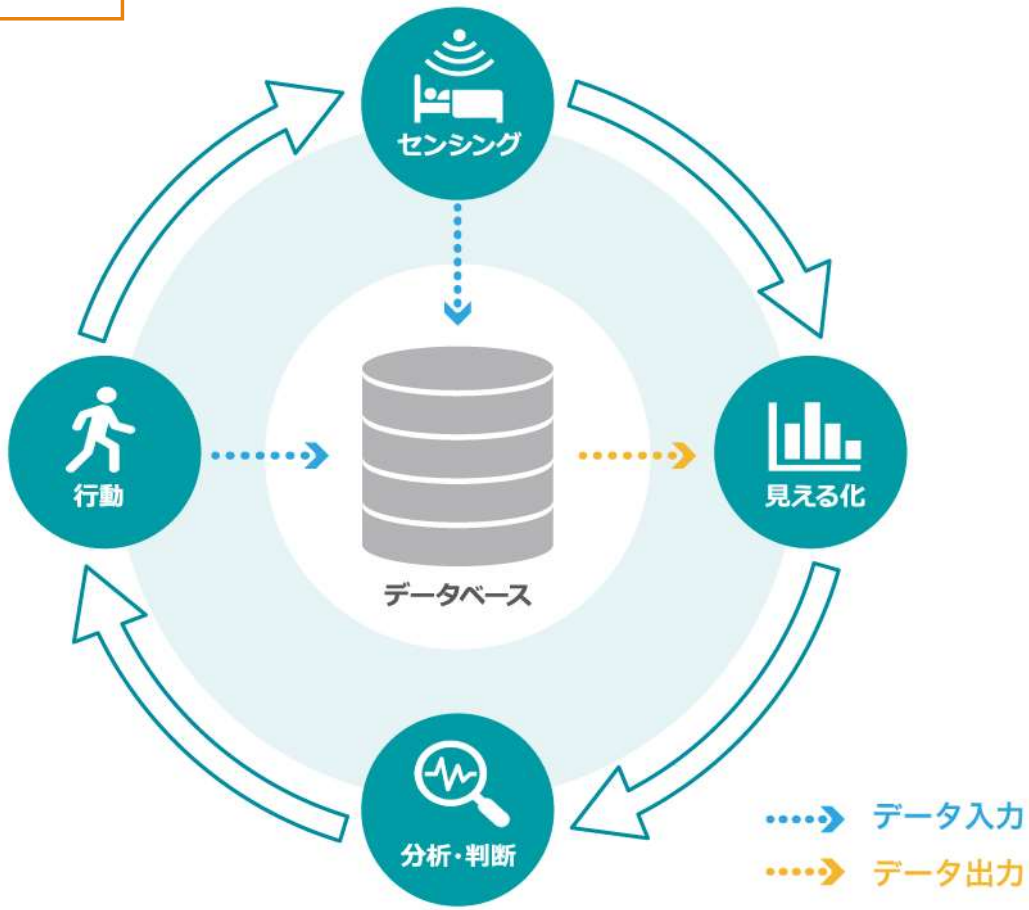
入居者胸部の動き(呼吸状態）を
常時監視

異常検知時は【微体動異常】
として職員に通知

呼吸状態で入眠と覚醒の判断し
データとして記録

行動分析ツール(アプリ）について

行動分析ツールのイメージ



※　コニカミノルタホームページより参照

考えられた課題

入居者の行動に対して共通認識が取れていない

そうは思わないなぁ。だって
Aさんはこんな人だから・・。

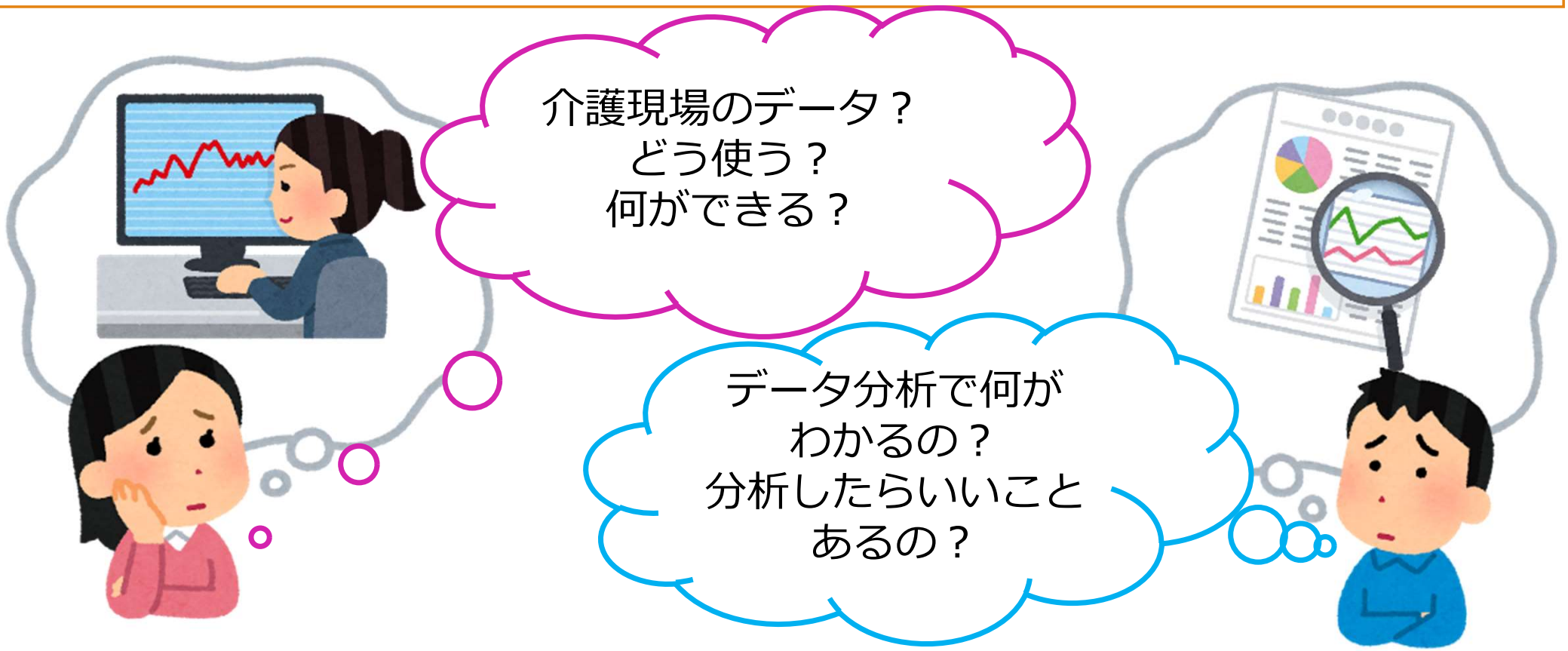
Aさんはこんな
人だよね。

だからこういう
ケアをみんなで
やっていきたい。

自分はこういう
対応でうまく
できたけど・・・
そのケアって意味
あるの？

考えられた課題

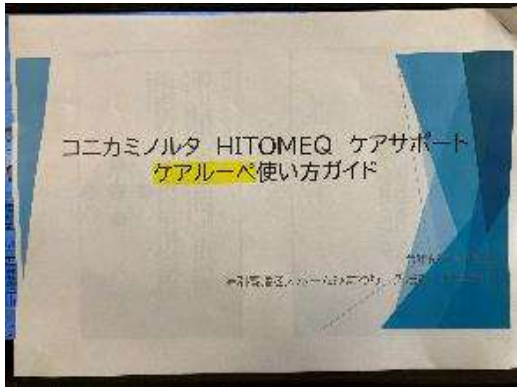
データの活用方法が分からない
行動分析アプリの操作が分からない



行動分析アプリの定着にむけた意識改革

愛生館 AISEIKAN GROUP

① マニュアル作成と掲示



② 入居者のサンプルデータ選定

③ 使用に向けての情報共有

④ 個別レクチャーの実施

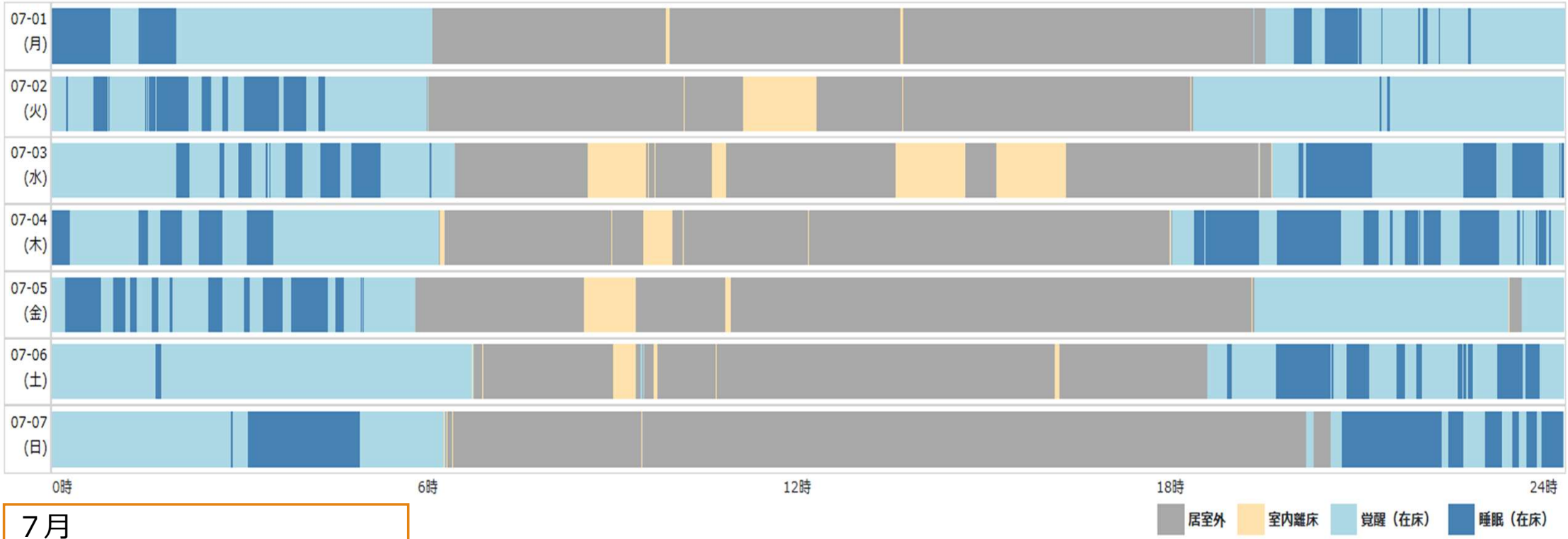
サンプルデータ対象者

氏名・年齢	Oさん　８７歳
既往歴	外傷性てんかん　認知症 変形性股関節症　腰椎圧迫骨折 骨粗鬆症など
日常生活自立度	B1
認知症生活自立度	Ⅳ
性格、タイプ	・基本的に穏やかな性格であるが、認知症のBPSDにより時々強い介護拒否が見られる。 ・怒りやすく、強い興奮状態となって大声での強い口調で拒否反応を示す。そうなるとこちらの声掛けが通じないこともある。 ・夜間は尿意などで起床される。また、夜間に興奮状態となると臥床し続けることが困難である。

Oさんの普段の状態　（7/1～7/7）

愛生館 AISEIKAN GROUP

居室での過ごし方



７月

平均睡眠時間　４．０時間

平均在床時間　１０．７時間

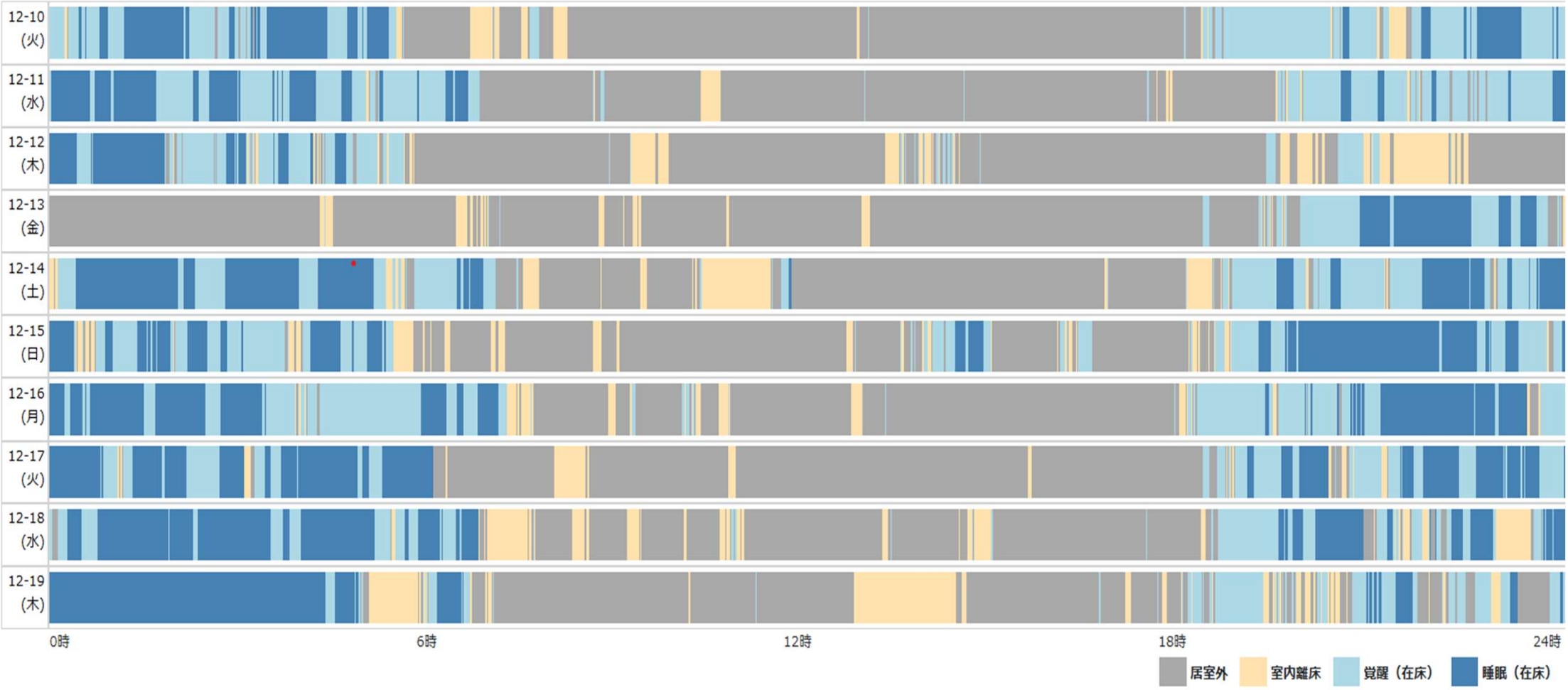
Sさんの症例紹介

氏名・年齢	Sさん　８３歳
既往歴	アルツハイマー認知症 高血圧
日常生活自立度	A2
認知症生活自立度	Ⅲa
性格、タイプ	・目立った既往歴はなくADLも高いが、認知症状はかなり悪く短期記憶が困難。 ・施設内に入居している奥さんが違うユニットを利用していることを忘れて、施設に取り残された感じられて居ることが多い。 ・力が強く、興奮すると大声で感情を出される。 ・夜間の不穏時は、帰宅願望が強く見られ、ユニット内を徘徊する行動が見られる。

Sさんの居室利用状態

愛生館
AISEIKAN GROUP

居室での過ごし方



Sさんへのデータを活用したチームケア

PDCAサイクル

◎　個々でのデータ確認
◎　実施した事の記録共有
◎　Sさんの言動の変化観察

◎　チームでのデータ分析
◎　行動評価と改善
◎　次の対応方針決定

Sさんの睡眠状況

夜間帯の12時間を示す

睡眠時間を示す

活動で見えてきたこと

愛生館 AISEIKAN GROUP

・ユニット全員がケア方針に納得がしやすくチームケアに統一感がでる。（共通認識の向上）

・データの活用方法として、居室センサーの選定など新たな活用法も発見された。（アプリの周知が深まる）

◎新たなのチームケアの手法を提案・実施できた。

◎データの捉え方に個人差が出ることもある。

今後の課題

愛生館 AISEIKAN GROUP

・分析ツールを継続利用する仕組みづくり。

・分析ツール使用の波及。

・ケアの機械化への信頼性向上。

**高精度データと
真心の対応で
質の高いケアを
提供する！！**

愛生館
AISEIKAN GROUP

ご清聴ありがとうございました